

事業所の概要表

(令和 7 年 7 月 1 日現在)

事業所名	グループホーム愛					
法人名	株式会社デイサービス愛					
所在地	愛媛県今治市東鳥生町1丁目6番37-2号					
電話番号	0898-35-3880					
FAX番号	0898-35-3891					
HPアドレス	http://grouphomeai@eaa.etkeeper.ne.jp					
開設年月日	令和 6 年 4 月 18 日					
建物構造	☒ 木造 ☐ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☐ 平屋 (2) 階建て (2) 階部分					
併設事業所の有無	☒ 無 ☐ 有 ()					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 9 人			
利用者人数	6 名		(男性 1 人 女性 5 人)			
要介護度	要支援2	名	要介護1	1 名	要介護2	名
	要介護3	2 名	要介護4	1 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	11 人	1~3年未満	0 人	3~5年未満	0 人
	5~10年未満	0 人	10年以上	0 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 2 人		介護福祉士 3 人			
	その他 (実務者研修受講 3人、ヘルパー2級 2人)					
看護職員の配置	☐ 無 ☒ 有 ☒ 直接雇用 ☐ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 ()					
協力医療機関名	セントラルクリニック					
看取りの体制 (開設時から)	☐ 無 ☒ 有 (看取り人数: 2 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円					
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有 円					
保証金の有無	☒ 無 ☐ 有 円 償却の有無 ☐ 無 ☐ 有					
食材料費	1日当たり	1,650 円	朝食:	550 円	昼食:	550 円
	おやつ:	0 円	夕食:	550 円		
食事の提供方法	☒ 事業所で調理 ☐ 他施設等で調理 ☐ 外注(配食等) ☐ その他 ()					
その他の費用	水道光熱費	0 円				
	共益費	16,000 円				
	管理費	16,000 円				

家族会の有無	☒ 無 ☐ 有 (開催回数: 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	☒ 無 ☐ 有 (発行回数: 回) ※過去1年間		
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	☒ 市町担当者	☒ 地域包括支援センター職員 ☐ 評価機関関係者
		☒ 民生委員	☒ 自治会・町内会関係者 ☐ 近隣の住民
		☒ 利用者 ☐ 法人外他事業所職員 ☒ 家族等	
	☐ その他 ()		

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和7年8月27日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	6	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	4		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890200789
事業所名	株式会社デイサービス愛
(ユニット名)	グループホーム愛
記入者(管理者)	
氏 名	八木 恵美
自己評価作成日	令和 7 年 7 月 15 日

【事業所理念】※事業所記入 入居者の立場に立った介護を行い、地域社会に開かれた質の高いグループホームを目指します。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 新規事業所	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人代表者は、地域住民で、また、訪問看護や介護等の介護事業所を運営していることもあって、地域の人たちとの信頼関係がある。系列デイサービスの行事の折には、地域の人も参加しており、グループホームの利用者も参加して交流を図っている。 日々の会話の中で好きなものや食べたいものを聞いており、献立に採り入れるようにしている。野菜等は、産直市で購入するなど旬のもの、地元のもの、珍しいものを使用している。 職員の負担軽減と利用者の安全対策として、各居室に監視カメラを設置し、モニターで一括確認ができるしくみを導入している。
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】
◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	ケアマネジャーと管理者が一体化し利用者さんが住みやすい状態に努めている	◎		○	利用者の暮らしの希望や意向について、入居時は、ケアマネジャーが家族等に聞き取りを行っている。また、入居後は、日々、利用者にかかわる職員が聞き取り、介護記録に記入することになっている。今後さらに、記録量を増やして個々の思いを探ってほしい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	従業員で毎月一回ミーティングをし、入居者の住みやすい状態を作っている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族と連携し情報を提供している				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の記録に残しスタッフ間でも共有している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ミーティングをしているなかで入居者の情報を話し合い、従業員一同が入居者の個々の情報を把握する				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族、ケアマネジャーと情報交換をしている			△	入居時にケアマネジャーが聞き取り、利用者基本情報シートに生活歴等について記録しているが、さらに馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境等の情報収集にも取り組み、その人らしい暮らしをホームでも続けていけるよう支援につなげてほしい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	把握に努めている				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の出来事をカルテに記載し、従業員にわかるようにしている				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ケアマネジャーが月一回入居者さんと話し合い、意見交換している			△	現在は、ケアマネジャーが職員等に聞き取りを行い、介護計画を作成している。さらに、地域密着型サービスの意義を踏まえ、チームで行うアセスメントという観点から取り組みを工夫してみたい。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	把握に努めている				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向等を確認して計画に反映させている				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々かかわっている介護スタッフや面会に来られた家族にも聞き取りを行い、その内容も加味して計画を立案している	◎		△	ケアマネジャーが情報収集をした内容を探り入れて、介護計画を作成している。さらに、利用者のその人らしい暮らしをチームでサポートできるような介護計画の作成に工夫してほしい。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	2か月毎の運営推進会議等で地域の人やご家族にも参加してもらい意見交換を行っており、その内容も盛り込んで計画を立案している				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月ミーティングし、職員一同が把握している			×	新しく介護計画を作成した際には回覧しているが、職員が把握・理解できているか、共有できているかは不確かである。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	支援につなげている			×	介護計画にそってケアが実践できたかについては、介護記録に記入することになっているが、記入量は少なく、記録の中から探す必要がある。さらに、モニタリングにつなげやすいような記録方法に工夫してほしい。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	行っている			◎	ケアマネジャーが期間を管理しており、3か月ごとに 見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は 現状確認を行っている。	○	月一回入居者さんとお話している			△	月に1回行うミーティングの中でケアカンファレンスを行 い、介護計画の内容にかかわらず、気になる利用 者の状況について話し合っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合 は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行 い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	計画を作成している			○	身体状態の変化があった場合は、介護計画の見直し を行うことになっているが、この一年間では事例がな いようだ。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、 定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度 会議を開催している。	○	月一回ミーティングをしている			◎	月に1回、ミーティングを行い議事録を作成している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率 直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や 場づくりを工夫している。	○	従業員一同毎月ミーティングをしている				職員全員がミーティングに参加できるように、1日に2 回(9時～10時・14時～15時)、同じミーティングを 行うようにしている。(夜勤明け、夜勤入り職員が参加 しやすいように)
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多く の職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫する とともに、参加できない職員にも内容を正確に共有して いる。	○	ミーティングは全員参加にしているが、出てこれ ない職員にはミーティング記録を残し、確認して もらっている			◎	新設事業所でもあり、今後はさらに、職員のチーム ワークを高めるためにも、ミーティングの場を職員間 の情報共有や共通認識を行う場にしてほしい。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全て の職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援 に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日々変化があった時にはカルテに記載し、従業 員全員が把握している	◎		○	日誌に記入して申し送りを行っている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向 を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それ を叶える努力を行っている。	○	行っている				職員が決定して提供している現状にあるようだ。 管理者は、職員の対応について「時間がかかってもよ いので、利用者の思うようにしてほしい」と考えてい る。まずは、すべての職員で意識して、利用者を選ん でもらう機会や場をつくり、選ぶのを待つ場面を つくったりしてみてほしい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する 機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつく る、選ぶのを待っている等)	○	自己決定する機会や場をつくっている			×	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひ とりのペースや習慣を大切に支援を行っている。 (起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・ 長さ等)	○	一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行 っている				
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うる おい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている	○	スタッフ全員で言葉がけや雰囲気づくりをしてい る			○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない 場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしな がら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援し ている。	○	表情や全身での反応を観察しながら、本人の 意向にそった暮らし方ができるよう支援している				
10	一人ひとりの誇りやプライバ シーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の 誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等につ いて、常に意識して行動している。(人前であからさ まな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たず さりげない言葉かけや対応等)	○	できている	◎	◎	△	新しく職員が入った時(令和6年11月、令和7年5月) には、ミーティング時を捉えて、「認知症の理解」につ いて管理者がレクチャーしている。 この一年間では、職員が「人権」や「尊厳」とは何かを 学ぶような機会は持っていない。 職員の言葉がけや態度について気になるような場面 があれば、管理者が直接注意をしているが、調査訪 問日には、利用者を「～ちゃん」等と呼んだり、言葉が けや声の大きさ等、気になる場面が見受けられた。 さらに、定期的な研修の実施、自己点検、話し合い等 の機会をつくってほしい。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライ バシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	行っている				居室は、1階と2階にあり、職員が自由に入出入りして いるような場面が見受けられた。
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバ シーの場所であることを理解し、居室への出入りなど 十分配慮しながら行っている。	○	行っている			△	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏 えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報を漏さないように、従業員には同意 を得ている				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利 用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝 し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の先輩であり、昔のことなどわからないこと を教えてもらっている				2階の居室の利用者同士が部屋を行き来しておしゃ べりするような場面がみられるようだ。 食事が済んだら、居室に入って過ごす利用者が多い ようだが、共用空間で他の利用者と一緒にくつろげる ような場所の整備をすすめてほしい。利用者同士が 支え合って暮らしていけるような環境づくりに取り組ん でほしい。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮 らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者が暮らしやすいように配慮している				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになっ たり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、 支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用 者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が 交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発 揮してもらう場面をつくる等)。	○	誕生日会や色々なイベントを活用して、利用者 同士が交流できる場を作り、孤立したりしないよ うに支援している			△	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその 解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生 じさせないようにしている。	○	当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせ ないようにしている				
12	馴染みの人や場との関係継続 の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り 巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握して いる。	○	入居時および適宜聞き取りをして把握している				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人 等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていた りなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が 途切れないよう支援している。	○	家族から要望があり、面会等を希望される場合 は会っていただいたり、馴染みの場所に出かけ たりしてもらっている				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希 望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。 (職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間 帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者および意思表示が困難な場合はご家族 の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取 組んでいる	○	◎	○	気温や天気等をみながら散歩を支援している。 系列サービスの外出行事(道の駅、季節の花見 物等)時には、利用者2名くらいと職員が参加して一 緒に出かけている。 来月は、利用者からの希望で、ブドウ狩りに出かける 予定になっている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等 の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	すすめている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ケアを行っている				毎日、昼食前には、ラジオ体操、口腔体操を行い、歌を2曲歌うことが日課となっている。 2階の廊下で歩行練習をする利用者がいる。 職員が掃除をしていたら、利用者も一緒に掃除機やモップがけを行うような場面があるようだ。 2階の居室に上がる時には、エレベーターを使うが、下りる時には、利用者の状態をみて階段を使うことを勧める等、職員が付き添って運動の機会をつくっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守ったり一緒に行うようにしている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所時に聞き取りしたり、日々の観察を行って、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握するようにしている				誕生会は、事前に「何が食べたい？」と本人に希望を聞き、職員が手づくりをしている。調査訪問日が誕生日の利用者がおり、昼食に寿司をつくっていた。 職員の相談事を聞いてくれる利用者があり、職員は「聞いてもらって気分が楽になる」と話していた。 系列デイサービスの行事に参加した際に、掃除を手伝う利用者がいる。また、花壇の水やりをする利用者がいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている	○	◎	○	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	把握している				利用者は、季節に合った清潔な服装で過ごしていた。 衣類は家族が用意している。 訪問理容を利用している人は、希望を伝えて散髪をしてもらっている。 行きつけの美容室や理容店に、家族が連れて行くようなケースが複数ある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の気持ちにそって支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなくカバーしている	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご家族に連絡して、行けるようにしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさが保てる工夫や支援を行っている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している				昼食を中心に、調理専門の職員を配置している。 管理者がだいたい食材の買い物をしており、足りないものを職員が買い足して食事を手づくりしている。 利用者が食事づくりのプロセスにかかわるような機会はほぼない。 利用者の一人は、テーブルやお盆拭きを行っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	一緒にできる利用者はとともに行っている			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒にできる利用者はとともに行い、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居時に本人・家族や支援者から聞き取って把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味などを取り入れている。	○	季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味などを取り入れている			◎	日々の会話の中で好きなものや食べたいものを聞いており、献立に採り入れるようにしている。野菜等は、産直市で購入するなどして、旬のもの、地元のもの、珍しいものを使用している。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	利用者個々の健康状態にあわせた調理方法をとおり、おいしいような盛り付けの工夫をしている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れたもの、使いやすいものを使用している			△	調査訪問日の昼食時、職員は、台所で作業をしたり、利用者のそばに立って見守りをしたりしていた。その後、休憩を取りながら持参した弁当を食べていた。 事業所で行ったクリスマス会時は、職員も利用者と同じものを食べながらパーティーを楽しんだ。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	見守りや適宜、サポートをしている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している	○		○	台所と居間がつながっており、調理の音やにおいが感じられる。 さらに、利用者の食べる時の姿勢や高さ等についても点検してみたい。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて、1日を通じて確保できるようにしている				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる				毎食、食材をみて献立を決めている。 法人代表者からは、「タンパク質をしっかり摂れるように」と献立の助言があり、反映している。
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	スタッフ間で定期的に話し合い、偏りがないように配慮している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解している				口腔ケア時に目視はしているが、把握までには至っていない。 毎食後、声かけや誘導を行い歯磨きを支援している。居間や2階には、車いすでも使用しやすい洗面台が3台ずつ並べて設置してある。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	把握している			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	口腔の清潔を日常的に支援している			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解している				気になる利用者の状況があれば、毎月行われるミーティング内のケアカンファレンスで話し合っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	理解している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている	○		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	本人やスタッフ間で排泄の自立に向けた検討をしながら改善に向けた取り組みを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンを把握し、兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の希望に沿って支援している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個人の状態を確認して、個々に合った下着やおむつを使用している				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取量、飲食物の工夫、予防につなげる支援をしている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	×	入浴は入居者様の本意とは個々に沿った入浴はできていない。それを施設の課題としている	◎		△	週に2回の入浴を支援している。夏場は、全員シャワー浴のみの支援と決まっている。重度の利用者については、デイスサービスの機械浴を使用して支援している。さらに、入浴を楽しむことができる支援という観点から、まずは、個々の入浴の習慣や希望の把握から始めてはどうか。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	入居者様の状態に応じ、できる限り希望に沿った支援をしている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	職員が個々のできるところはしていただき、できないところは職員が手助けをする				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けをし、入居者様が入浴を嫌がっている場合でも無理知恵をせず、時間をおいて声掛けをする				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入居者の健康状態は朝のバイタルチェックで把握している。入浴後は水分補給を行い、入居者の状態の把握に努めている				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	巡視時に入居者の睡眠状況を記録しており、眠りが浅い方は日中の活動量を増やしたりしている				半数以上の利用者が入眠導入剤を使用しており、主治医と相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日々日中に寝ている入居者様については、声掛けをしている				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	往診時入居者の状況を医師と話し合いをし、支援している			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	入居者の状態に応じて声掛けし部屋に戻られやすんでもらっている				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族からの要望もあり、連絡を取りたいときには はすぐとれるように対応している				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	家族に連絡を取りたいときには、職員が変わって 連絡している				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話できるように配慮している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡し、文字が読みにくい方には代読を行 っている。希望される場合には返事の作成のサ ポートをしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力を してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれる ようお願いしている。	○	支援している				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や 大切さを理解している。	○	理解している				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日 頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っ ている。	○	系列施設の方が買い物行くときに、一緒に行け るよう職員とも協力している				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など と一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら 一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使 えるように支援している。	○	支援している				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し 合っている。	○	入出金の書類をつくり、家族様にお金の使い道 を説明している				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理 方法や家族への報告の方法などルールを明確にしてお り、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、 出納帳の確認等)。	○	入出金帳をつくり、月一回家族に説明している				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存 のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの 多機能化に取り組んでいる。	○	できている	◎		○	遠方の家族からの依頼で利用者の病院受診に職員 が付き添って支援するケースがある。 看取り支援時は、家族が居室に宿泊することが可能 となっている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の 配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気 軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫を している。	○	段差をスロープにするなどバリアフリー化しており 、手すりを設置して安全に出入りできるよう配 慮している	◎	◎	○	高齢者住宅を併設している建物の1階、2階部分に位置 するグループホームで、屋根付きの広い駐車場が隣接して いる。玄関までスロープを付けている。玄関前に花壇を整 備しており、皆で植えた日日草や百日草など夏の花が咲 いていた。
		a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイ レ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天 井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なもの しか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気 をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビングは季節感がわかるように折り紙を取り 入れている。共有スペースは入居者が思い思 いにくつろげる空間になっている	◎	◎	△	玄関を入ると、居間や台所の様子が見える。 共用空間は、白色を基調にしており、建具等は木目 調にしている。 居間は、限りがある空間だが、大きいテーブルの向き を変えて2つつなげて置き、利用者や職員がその周 りを動けるようにしていた。壁面に、洗面所を3台並 べて設置しており、鏡の周りには、折り紙等でつくった 季節の飾りをたくさん飾っていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	掃除は毎朝決められた時間に行っている。			○	掃除が行き届き、気になる臭いは感じなかった。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働 きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を 生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工 夫している。	○	入居者様のペースを大事にして日々の介護に つなげている			△	昼食時は、大画面の壁掛けテレビで、YouTubeの昭 和の歌番組を点けていた。 居間の磨りガラス窓から光が入り明るいが、眩しさも 感じる。ロールカーテンを付けていた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	居場所の工夫している				洗面台の鏡の所に大きい文字盤の時計を置いてい る。台所の近くの壁に大きいカレンダーを吊って予定 を記入していた。さらに、環境整備の中で五感に働 きかけるような刺激を空間に増やしてほしい。
27	居心地良く過ごせる居室の配 慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	長年使用してきた布団やテレビなど持込されて いる	◎		△	テレビや3段収納ケース等を持ち込んでいるが、使い慣 れたものや好みのものは少ない。 各居室に監視カメラを設置しており、玄関横の職員詰め 所のモニターで見る事ができる。家族からは、安全管理 の観点から「助かる」と言ってもらっているようだ。
28	一人ひとりの力が活かせる環 境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わか ること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつで きるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をして いる。	○	従業員が入居者の状態を把握し、できることは してもらっている			○	各居室の入り口戸には、花の名前とその花の大きい イラストを付けて目印になるようにしており、本人の名 前の表示はしていない。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつ でも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置か れている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、 趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の 道具等)	○	入居されたときに必要なものは置いてもいいとい うことを伝えており、				壁に「こちら」とトイレへの案内を付けていた。トイレ の入り口には、トイレのイラスト入りで表示していた。 さらに、環境整備の中で利用者の活動意欲を触発す る物品の用意等もすすめてほしい。
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟) の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけら れ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用 者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の 喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等) を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくとも済むように 工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所 の理解・協力の促進等)	○	入居者様の行動の把握、出入り口が常に見え るような位置にいるよう心がけている	△	◎	×	開設から玄関に鍵をかけず支援を工夫していたが、4 月に利用者が行方不明となり探したという事例があり 、その後、玄関に鍵をかけることになった。 この一年間では、鍵をかけることの弊害を含め、身体 拘束に関する研修等は行っていない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図 っている。安全を優先するために施設を望む家族に対 しては、自由の大切さと安全確保について話し合っ ている。	○	安全に努めている				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項 等について把握している。	○	カルテを職員の人がいつでも情報が分かるよう にしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常 のサインを早期に発見できるように注意しており、その 変化やサインを記録に残している。	○	変わったことがあればカルテに記載し、職員通 しや申し送りで随時報告するようにしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつ でも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適 切な入院につなげる等の努力をしている。	○	月2回往診の先生にきてもらい、入居者の変化 があれば随時報告している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診できるよう支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	適切な医療を受けられるように支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	合意を得られる話し合いを行っている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院関係者との情報交換や相談に努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職場内の看護職、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している				
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	相談できる体制がある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	体制を整えている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおり服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日常的に確認を行っている				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時、状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している				入居時には、看取りの指針に沿って説明を行っている。その後は、状態が悪化した時に話し合って方針を共有している。この一年間では、3名の利用者の看取りを支援した事例がある。家族は、毎日訪れて、見送った後、「良くしてもらった」と感想があったようだ。現在、看護師資格を有する職員が3名所在している。利用者の状態によって、ベッドに寝ている状態で定期的に心拍を測ることができるようなシステムを導入している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	マニュアルをつくり、従業員全員が把握している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状でどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	適宜、職員の思いや力量を把握し、現状でどこまでの支援ができるかの見極めを行っている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に、対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	チームで支援していく体制を整えている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族等への心理的支援を行っている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	入職時および毎月項目を変えて定期的に勉強会を開催している				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	体制を整え、毎月対応訓練を行っている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	保健所や行政、医療機関、インターネット等を通じて最新情報を入手し、随時対応している				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員はもとより、利用者や来訪者等についても、入退室時などに手指消毒の協力の声掛けを行い、清潔が保持できるよう支援している				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族とも本人を支えていく関係を築いている				特には取り組んでいない。 管理者は、利用者や家族に「ここを利用してよかった」と思ってもらえるようなホームをつくりたいと話していた。利用者や家族が事業所の活動に主体的にかかわれるよう取り組みを工夫してほしい。 管理者は、2名の家族とSNSでつながっており、様子を具体的に伝えてやり取りをしている。海外に住む家族には、利用者の誕生日に皆で撮った写真を送った。その他の家族には、電話で様子を伝えている。 玄関を入ったところに、行事時の写真を大きく伸ばし、ラミネート加工したものを縦じて吊るし、家族の来訪時等にみられるようにしていた。この一年間は、設備改修、機器の導入はなかったようだ。職員の入退職に関することは面会時に聞かれた時のみ報告している。 管理者は、気がかりなことや、意見、希望などがあれば連絡をもらえるよう伝えている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流）	○	2か月に一回運営推進会議を行い、家族も参加できるように声掛けをし、何か提案があれば言ってもらっている	○		×	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	遠方におられる方にはメールでやり取りをし写真を送っている。近場の方には面会時様子を伝えている	◎		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	より良い関係を築けるように支援している				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	イベントがあるときには報告し、参加して頂けるように支援している	○		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	話し合っている				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会時にはいつでもこれるように声掛けしている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。（食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	変更があった際には個人的に家族にご連絡し納得して頂けるように配慮している				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居の申し出があった時には家族の意向を確認し入居者が住みやすいように他社の施設とも連携し情報交換をしている				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	図っている		◎		法人代表者は、地域住民で、また、訪問看護や介護等の介護事業所を運営していることもあって、地域の人たちとの信頼関係がある。系列デイサービスの行事の折には、地域の人も参加しており、グループホームの利用者も参加して交流を図っている。さらに、事業所理念に「地域社会に開かれた質の高いグループホームを目指す」と掲げており、今後は、グループホーム独自でも地域とつながりを持てるような取り組みも工夫してみたい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	近くでイベントがあるときには、積極的に参加し、交流を深めている		◎	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	増えている				
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	施設でのイベントごとには声掛けし参加して頂いている				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらうなど、定期的なおつきあいをしている。	○	朝など挨拶したり、出会ったときにはいろいろな情報を共有している				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	行っている				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拓ける働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	もし入居者がいなくなった時を考え、近隣のひとにも協力してもらうよう声掛けしている				
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	市役所の方や地域包括、自治会長や民生委員の方に出席して頂き、情報交換をしている	○		△	会議には、自治会長や民生委員、市の担当者、地域包括支援センターの担当者、家族（一回のみ）の参加がある。利用者は参加していない。 会議では、自己紹介を行い、利用者状況、活動内容、ヒヤリハット等の報告をして意見交換を行っている。市の担当者から運営のアドバイス等がある。出された意見や提案は少なく、サービスに活かすまでには至っていない。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	運営推進会議で話合ったことは記事にしまとめ、出席して頂いた方には公表している		◎	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日にちや時間を決めて前もって参加して頂けるよう、日程を調整し工夫をして数多くの人に出席して頂いている		◎		

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念に基づいて共通認識を持ち、日常的に取り組んでいる				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	事業所理念をフロアに掲示し、入居時等に伝えている	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	従業員の方に研修するよう声掛けしている				1時間の休憩時間を確保している。 毎月、給料日には法人代表者から職員一人ひとりに労いを込めて美味しい食パン等の差し入れがある。また、正月にはお年玉、お盆には果物などのプレゼントがある。 職員の負担軽減と利用者の安全対策として、各居室に監視カメラを設置し、モニターで一括確認ができるしくみを導入している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	月一回ミーティングおよび勉強会を行っている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	リモート研修など行っている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	1か月に1回ミーティングをし、意見交換をして従業員に無理のないよう働いている	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	理解している			x	この一年間では、高齢者虐待に関して学んだり、理解を深めたりするような機会はつくっていない。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	月一回ミーティングを行っている				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	毎朝申し送りをして、職員の体調等の確認を行っている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	入職時等に教育、指導している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	月一回ミーティングを行っている				
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居者の状態を確認し、可能な限り身体拘束を行わないケアや必要性について、家族とともに検討している				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	利用者や家族の状況に応じて、情報提供や相談に乗る等の支援を行っている				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成して周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	入職時に対応訓練を実施し、以降は年に1回4月に訓練を継続している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故および事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめている。その後、職員間でカンファレンスを実施して対策を検討し再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者一人一人の状態に応じて、対策を検討し事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	対応マニュアルについては、入職時にスタッフへの教育を実施している。対応方法については、適宜、スタッフとともに検討している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があれば、マニュアルにそって対応している。必要と思われる場合は、市町に相談・報告等をするような体制を整備している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば、マニュアルにそって対応できるよう体制を整備している。対策案を検討して家族に回答を行う。以降も経過や結果を定期的に報告し、前向きな話し合いを行って良好な関係構築に努めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口(管理者)の設置と面会や電話連絡時等に意見や要望、苦情等の有無について確認している。2か月毎に運営推進会議を開催し、情報共有と対応について検討している	◎		△	利用者については、機会をつくっていない。 運営推進会議に参加した家族(1名が1回のみ)は、運営に関する意見や要望を伝える機会があったが、その他の家族については、機会をつくっていない。 現在、面会は、予約制で13時～14時の間に居間で行うことになっている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	適宜、管理者やケアマネジャー、地域包括支援センターへ苦情や相談が可能であることを伝えている				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	1日1回顔出しをし、従業員に対し声掛けをしている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月一回ミーティングを行い、話し合っている			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回、全員が自己評価している				新規開設事業所により、サービス評価を初めて実施するため評価はできない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果をもとに、事業所の現状および課題を明らかにし、改善計画を立案して事業所全体で取り組んでいる				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族や地域の方々に渡し、してもらっている	△	◎	評価困難	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内(毎月)や運営推進会議(二か月毎)で、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルを作成し、周知している				法人は、今治消防署に年会費を支払っており、系列デイサービスとともに、年2回、署員の指導、協力のもと、消火訓練、煙体験、通報訓練を実施している。今後は、避難訓練(夜間の火災想定)の実施や地域の防災訓練への参加、地域との協力支援体制づくりに向けた話し合いの機会などもつくってほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防署と連携して、半年毎に訓練を計画して実施している				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消火設備や避難経路の点検等を定期的に行っている				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防の方々にきてもらい、避難訓練をしたり系列の施設の避難訓練にも参加させていただいている	○	◎	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定して、消防署や医療機関、同事業所の他組織(デイサービス、サ高住)とともに共同訓練を実施したり、地域のネットワークづくりに参加している				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	できていない				系列デイサービスが相談を受けており、必要時に管理者が対応している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	行っている		◎	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	サロンを開催していたが、コロナ禍以降中止している				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生や高校生の職場体験実習の受け入れに協力している				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のイベントにも参加させてもらっており、運営推進会議などでいろいろ情報交換ができている			△	